

(別記)

令和3年度加西市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

<現状(令和2年度)>

本市は、3,300ha余りの水田が広がり、水稻を主体として麦・大豆・飼料作物や野菜・果樹・花きなどが栽培されており、それに酪農・肉用牛・養豚・養鶏など多種多様な農業が営まれている。

一戸あたりの耕地面積は約70aと零細で分散型の農地所有者が多く、農業就業人口においても兼業農家の割合が高く、農業従事者の高齢化や後継者不足による遊休農地の増加、米をはじめとする農畜産物価格の低迷など、本市の農業・農村は厳しい状況に直面している。

<課題>

このような状況の中、経営所得安定対策の導入を機に関係機関の更なる連携を強め、引き続き①地域の特性と創意工夫を生かした産地づくりの実践、②担い手を育成していく仕組みづくり、③生産振興作物の品質向上と収益性の確保などが必要となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

<適地適作の推進>

集落営農組織を中心に約230haの農地で麦の作付けが行われているが、作付面積に対する単収が低く実需者の要望量に達していない状態である。作付けに適さないほ場での作付けについては、適地への作付けの転換及び、排水対策によるほ場の改善等により収量の向上を目指す。

<収益性・付加価値の向上>

直売所との連携により地域特産品の知名度アップを図る。

特に加西市とJA等が連携して推進を行っている冬かぼちゃについては、糖度基準等の設定により優秀品を選別し、ブランドとしての付加価値を強化する。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

<地域実情の分析と農地の在り方>

農業従事者の高齢化や後継者不足により発生する遊休農地が増加している状態であり、畑地化等を検討する段階に至っていない状態である。

農地の保全を最初の目標とし、各集落の担い手である集落営農組織や認定農家への集積を推進する。

<水田の利用状況の点検方針・点検結果を踏まえた対応方針>

営農計画書における水稻作付け状況と今後の作付け方針について、年度ごとに各地域に対して確認を行う。数年にわたって水稻の作付け予定のない農地については各地域の担い手を含めた協議を行い、畑地化を検討する場合は一筆ごとの判断ではなく担い手への集積の上で方針を決定する。

4 作物ごとの取組方針等

需要に応じた米の生産の実効確保とあわせ、特色ある米づくりとして酒造好適米による高付加価値化や直播栽培による低コスト・省力化、良食味米生産の推進による米の収益性の向上を図る必要がある。特に酒造好適米は、農家所得の増大のためにも作付面積の確保と品質の向上が求められる。

転作作物としては、加工用米、飼料用米の需要を見込み、営農組合を中心に効率的に拡大を推進していく。引き続き麦・大豆・飼料作物などの生産振興やアスパラガスなど地域の特色を生かした園芸作物の生産と定着化など、適地適作による収益性の確保と水田利用の団地化による地域農業の維持拡大を図る。さらに通年の水田活用のために引き続き二毛作の取組を推進していく。

(1) 主食用米

需要動向に応じた計画的な作付を推進し、消費者ニーズを踏まえながら、おいしさに安全を添えた加西産米の生産を図るため、以下の事項を中心に進めていく。

- ①良食味米生産の推進（おいしいお米づくり）
- ②集落営農組織・認定農業者等、担い手による低コスト安定生産の推進
- ③コスト低減のための各種取組を取り入れた生産体制の構築
- ④消費者・実需者ニーズにあった生産方式の導入や品質向上への新品種の検討（地域特性を生かしたお米づくり）

酒造好適米については作付面積は縮小傾向にあるが、土づくりを含めた品質の向上を図り、加西産山田錦のブランド化に向けて取り組む。

(2) 備蓄米

取組予定はないが、状況見合いで取り組む可能性あり。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

市内に実需者もあり、需要の高まりを受け、生産増大を勧める。
特に、営農組合を中心に広域に拡大を図る。

イ 米粉用米

地産地消の推進を図るとともに、需要の動向を見ながら作付の維持拡大を図る。

ウ 新市場開拓用米

取組予定はないが、状況見合いで取り組む可能性あり。

エ WCS 用稲

県内に実需者もあり、需要の高まりを受け、生産増大を勧める。
特に、集落営農組織を中心に広域に拡大を図る。

オ 加工用米

酒造用としての需要の高まりを受け、生産増大を勧める。
特に、集落営農組織を中心に促進する。

(4) 麦、大豆、飼料作物

ア 麦

生産ロットの確保と1等麦比率を高め、品質の均一化を図るため、以下の事項を中心に推進する。

- ①計画的生産の推進。
- ②作付の団地化、適期作業、排水対策の徹底、肥培管理等の基本技術の励行による品質と収量の向上。
- ③集落営農組織等担い手による低コスト生産の推進。

イ 大豆

生産ロットの確保と品質の均一化を図るため、以下の事項を中心に推進する。

- ①計画的生産の推進。
- ②需要に適した大豆の作付を推進する。
青大豆について市内学校給食への活用を推進していく。
- ③基本技術の励行による品質・収量の向上と外来雑草対策。
- ④集落営農組織等担い手による低コスト生産の推進。
- ⑤JA等の推奨している黒大豆の産地拡大を図る。
- ⑥JA等の生産者部会など今後の産地化を見込む作物の発掘

ウ 飼料作物

以下の事項を中心に推進する。

- ①計画的生産の推進。
- ②需要に適した飼料作物の作付。
- ③集落営農組織等担い手による低コスト生産の推進。

(5) そば、なたね

需要動向や消費者ニーズに応じた計画的な作付を推進する。

(6) 高収益作物

加西市とJA等が連携して推進するアスパラガス、キャベツ、きぬさや、ししとう、かぼちゃ、小豆等について、作付の拡大を図る。

JA等で生産者部会を設置し、農産物の出荷に向けた取組を推進している作物の拡大を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1,939	1,930	1,920
備蓄米	0	0	0
飼料用米	67	67	70
米粉用米	7	7	8
新市場開拓用米	5	0	0
WCS用稲	20	20	26
加工用米	50	60	65
麦	226	230	235
大豆	42	50	55
飼料作物	74	80	85
・子実用とうもろこし	0	0	0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
高収益作物	35	36	48
・野菜	24	25	30
・花き・花木	4	4	6
・果樹	1	1	2
・その他の高収益作物	6	6	10
畑地化	0	0	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値（ha）
				（ha）	
1, 2	麦・大豆 飼料作物	戦略作物集積加算	作付面積拡大	（令和2年度）319.5	（令和5年度）345.0
3, 4	キャベツ・きぬさ や・かぼちゃ・し しとう・アスパラ ガス・いちご・ト マト・ぶどう・ブ ロッコリー・たま ねぎ	加西市農業再生協議 会推奨作物助成	作付面積拡大	（令和2年度）14.5	（令和2年度）20.0
5, 6	黒大豆 青大豆	産地拡大加算	作付面積拡大	（令和2年度）28.6	（令和5年度）31.0
7	戦略作物・そば・ なたね	二毛作助成	作付面積拡大	（令和2年度）32.0	（令和5年度）40.0
8	飼料作物・飼料用 米・WCS用稲	耕畜連携（わら利 用、水田放牧、資源 循環）	作付面積拡大	（令和2年度）86.5	（令和5年度）95.0
9, 10	野菜、果樹、花き 等	基本助成（一般作 物）	作付面積拡大	（令和2年度）46.6	（令和5年度）52.0
11, 12	加工用米	加工用米の取組助成 （地域需要対応）	作付面積拡大	（令和2年度）68.6	（令和5年度）75.0
13	WCS用稲	WCS用稲作付増進	作付面積拡大	（令和2年度）20.2	（令和5年度）26.0
14, 15	野菜、果樹、花き 等	野菜、果樹、花き等 取組増進加算	作付面積拡大	（令和2年度）30.5	（令和5年度）40.0
16, 17	戦略作物	戦略作物担い手集積 加算	作付面積拡大	（令和2年度）447.1	（令和5年度）460.0
18, 19	野菜、果樹、花き 等	産地交付金担い手集 積加算	作付面積拡大	（令和2年度）30.5	（令和5年度）40.0
20	高収益作物等	高収益作物等 拡大加算	高収益作物等面積 （前年差）	（令和2年度）0.0	（令和5年度）20.0

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり